

天塩中学校・天塩高校に おける校種間連携の取組

平成30年2月7日(水)
北海道天塩高等学校



天塩中学校・天塩高校 校種間連携の取組

- 1 研究主題
- 2 2年間の主な取組
- 3 成果と課題
- 4 次年度へ向けて



1 研究主題

「義務教育段階における学習状況を踏まえた、
高等学校における学習指導や学習評価の改善・充実、
及び系統性のある指導計画の作成に関する研究」



1-1 研究主題の設定について

POINT

- ア 学校概要
- イ 天塩町の取組



ア 学校概要

- 全日制普通科
- 全校生徒144名(2間口)
- 近隣6町村から通学(8中学校)
(天塩町、遠別町、初山別村、幌延町、豊富町、中川町)



「天塩高校卒業生の主な進路(大学)」

北海道大学1	公立はこだて未来大学1
弘前大学1	天使大学1
横浜市立大学1	日本赤十字
北見工業大学3	北海道看護大学1
琉球大学1	北海学園大学20
旭川医科大学1	北星学園大学2
小樽商科大学1	
北海道教育大学岩見沢1	※H23～H28の卒業生実績
名寄市立大学1	
釧路公立大学1	

「天塩中学校の卒業生主な進路(大学)」

弘前大学(H27年度卒業生)
北海道大学(H25年度卒業生)
北見工業大学(H24年度卒業生)
琉球大学(H24年度卒業生)
旭川医科大学(H23年度卒業生)
小樽商科大学(H23年度卒業生)
岩見沢教育大学(H23年度卒業生)

天塩(天塩啓徳)中学校 ⇨ 天塩高校
全校生徒の約4割を占める！



イ 天塩町の取組

～ 天塩町教育研究協議会 ～

- ◆昭和42年より組織
- ◆小学校⇔中学校での連携が行われていた
- ◆平成26年度より高校も参加



1-1 研究主題の設定について

POINT

ア 学校概要

イ 天塩町の取組

天塩町教育研究協議会の成果を生かしながら

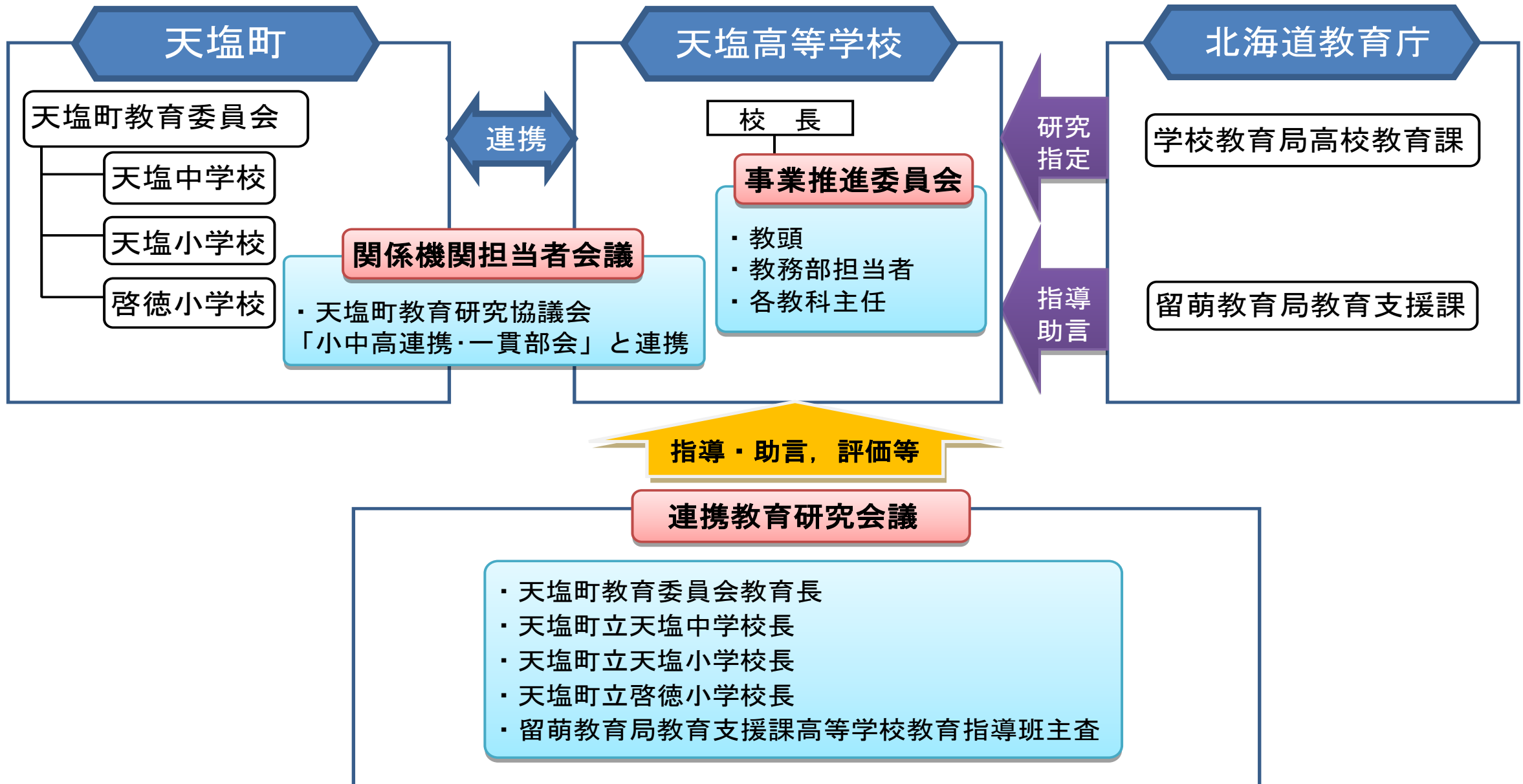


指導方法・評価方法・指導計画の改善・充実
系統性・校種間の接続を意識して研究する

1-2 研究体制



天塩町教育研究協議会の様子



2 2年間の主な取組

「教科による連携」
各教科担当による取組

天塩町教育研究協議会の各
教科部会とタイアップしながら
実施

- ・教科ミーティング
- ・授業参観
- ・研究授業
- ・研究協議
- ・乗り入れ授業（出前授業）
- ・12カ年指導計画作成

2 2年間の主な取組

- ・天塩町教育研究協議会へ参加
- ・関係機関担当者会議
- ・事業推進委員会
- ・公開研究会
- ・先進校視察
- ・アンケート(生徒・教職員)

「詳細内容」
学校間の連携
担当者の連携
天塩町との連携
事業の方向性について検討
情報収集
研修
研究会

2-1 先進校視察(天塩中学校)

◆ 12カ年の指導計画の作成に向けて

「小→中→高」と系統性を持った連携＋系統性のある指導計画



平成28年度 恵庭市立若草小学校・柏陽中学校

両校は、平成26年度より「小中一貫教育構想」を実施、
「9年間」を見通した教育課程・指導体制を確立すべく
小学校 ⇔ 中学校 で連携している。

2-1 先進校視察(天塩高校)

◆ 中高連携を継続させるための組織体制の確立に向けて



平成28年度 広島県立油木高等学校

町の教育委員会に連携のコーディネーター

※過疎地域で中高連携を成功しているケースを見たとき、コーディネーターの存在の重要性

平成29年度 静岡県立松崎高等学校・川根高等学校

委員会制の導入(静岡県立松崎高校・川根高校)

※ 中高の全教職員が、委員会に所属して活動

Ex: 交流授業委員会・授業公開委員会・川根の郷の夢を語る委員会・生徒交流委員会



2-2 教科ミーティング

- ◆天塩町教育研究協議会教科部会へ参加 → 連携強化
- ◆教科における課題を考察 → 課題の明確化
- ◆指導方法、評価方法、指導計画について協議・研修
- ◆校種の垣根を越えて授業を行う → 乗り入れ授業(出前授業)
- ◆研究授業、授業参観 → 協議を行い指導方法について研修



平成28・29年度 中高連携事業 研究授業(授業参観)・乗り入れ授業(出前授業)・教科ミーティング 実施結果一覧表

保健体育	研究授業 (授業参観)	乗り入れ授業 (出前授業)	教科ミーティング	12カ年 指導計画
	11/21中学校	2/3中学校	4月12日	全領域
			6月17日	
			1月19日	
			2月3日	
	11/28小学	10/31中学	4月19日	
	12/20中学	11/6中学	6月16日	
		11/7中学	10月26日	
	12/20高校			
計	3	5	7	

理科	研究授業 (授業参観)	乗り入れ授業 (出前授業)	教科ミーティング	12カ年 指導計画
	11/30中学校	12/5高校	4月12日	物質 (化学領域)
			6月17日	
			9月23日	
			7月27日	
			11月17日	
	11/1中学	11/7高校	4月19日	
			6月16日	
		11月1日		
計	2	2	8	

国語	研究授業 (授業参観)	乗り入れ授業 (出前授業)	教科ミーティング	12カ年 指導計画
	9/8小学校		4月12日	一部領域で 実施 (話すこと・ 聞くこと)
	9/13中学校		6月17日	
	11/25高校		7月29日	
			9月13日	
			2月3日	
	12/12高校		4月19日	
	12/18小学		6月16日	
		12月18日		
計	5	0	8	

英語	研究授業 (授業参観)	乗り入れ授業 (出前授業)	教科ミーティング	12カ年 指導計画
	7/4小学校啓徳		4月12日	音声による コミュニケーション・文字 や単語の取り扱い
			6月17日	
			7月4日	
			2月3日	
	10/23中学	11/13高校	4月19日	
			6月16日	
			10月23日	
		11月13日		
計	2	1	8	

社会	研究授業 (授業参観)	乗り入れ授業 (出前授業)	教科ミーティング	12カ年 指導計画
	11/16中学校	11/16高校	4月12日	分野・領域 を選んで、 一部実施予 定
	12/1小学校	11/22高校	6月17日	
	12/1中学校		11月22日	
			12月1日	
	12/6中学	12/14高校	4月19日	
		12/14高校	6月16日	
			11月15日	
		1月?日		
計	4	4	8	

数学	研究授業 (授業参観)	乗り入れ授業 (出前授業)	教科ミーティング	12カ年 指導計画
	7/6小学校		4月12日	全領域 (領域によっ て、12カ年 で無い場合 もある)
	11/30小学校啓徳		6月17日	
	10/18中学校		7月28日	
	12/9高校			
	12/15中学校			
	4/19小学		4月19日	
	6/16中学		6月16日	
		12月14日		
計	7	0	6	

音楽	研究授業 (授業参観)	乗り入れ授業 (出前授業)	教科ミーティング	12カ年 指導計画
	12/16小学校	2/14高校	4月12日	領域「A表 現・B鑑賞」 にて指導計 画を作成
		2/17高校	6月17日	
		2/21高校	12月16日	
		2/23高校	2月14日	
			2月17日	
			2月21日	
		9/21高校(中1)	4月19日	
	9/21高校(中2)	6月16日		
	9/21高校(中3)			
計	1	7	8	

家庭	研究授業 (授業参観)	乗り入れ授業 (出前授業)	教科ミーティング	12カ年 指導計画
	12/7中学校	12/14高校	10月7日	食生活・衣 生活分野で の作成
			11月21日	
			12月14日	
		12/13高校(啓徳小)	4月19日	
		12/19高校(啓徳小)	6月16日	
計	1	3	5	

養護	研究授業 (授業参観)	乗り入れ授業 (出前授業)	教科ミーティング	12カ年 指導計画
			4月12日	小・中・高保 健情報一覧 表(仮)
			6月17日	
			9月21日	
			11月16日	
			4月19日	
			6月16日	
計	0	0	6	

研究授業(授業参観)総数 25

乗り入れ授業総数 22

教科ミーティング総数 64



3 成果と課題

①指導方法及び評価方法の改善充実

- ◆近いようで遠かった他校種との連携が活発化
教科ミーティング数 → 計64回
- ◆研究授業25回実施
- ◆乗り入れ授業、T・T授業計22回実施



3 成果と課題

①指導方法及び評価方法の改善充実

◆どのような力を付けさせたいか → 課題の明確化



発達段階に応じた【12カ年指導計画】を作成

3 成果と課題

②12カ年指導計画

- ◆12カ年を見据えて指導計画を作成する
- ◆天塩町の児童生徒の実態に沿ったもの
「そんな指導計画があった方が良いな！」
「これまで何教わってきたのよ！」 → ×



3 成果と課題

③教職員アンケート(小・中・高の教職員)

◆校種間連携における意識調査

●校種間連携に対する意識(「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合)

	H28	H29
(1)校種間の連携は、自校の生徒にとって有益だ。	94.3%	92.1%
(2)校種間の連携は、自校の教職員にとって有益である。	82.9%	97.4%
(3)校種間の連携によって、自校のめざす学校づくりが進む。	77.1%	71.1%
(4)現在、自校は校種間連携を十分に行っている。	34.3%	63.2%



3 成果と課題

③教職員アンケート(小・中・高の教職員)

◆校種間連携における意識調査

経験が少なく、教科外の指導を行う教員もいる

→ 研究環境が整備されたことにより、悩みや指導方法など相談がしやすくなった

→ 中高の教員が校種間連携の意義を理解し、積極的に取り組むように



3 成果と課題

③教職員アンケート(小・中・高の教職員)

◆教科指導の工夫改善について

- ・小学校において、中学校の学習指導要領を確認し、小学校で身に付けるべき知識・技能、既習事項を精査することにより指導計画を作成している。
- ・高等学校において、中学校の教科書を確認し、重点的に取り組むポイントを精選している。
- ・高等学校において、中学校での既習事項を確認し、必要に応じて学び直しをするとともに、中学校における既習事項を踏まえた学習となるよう指導計画を作成している。
- ・各校種において、小6から中1への接続、中3から高1への接続(ギャップの解消)を考慮している。



3 成果と課題

③生徒アンケート

◆学習意欲・時間について

■学習意欲・時間について(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合)

[平成28年度及び平成29年度の高等学校第1学年が回答]

・高校入学前に比べ学習意欲が高まった

年度	割合
H28	80.0%
H29	88.3%

・高校入学前に比べ授業以外の学習時間が増えた。

年度	割合
H28	67.5%
H29	68.6%

3 成果と課題

③生徒アンケート

◆学習意欲・時間について

・授業のある（平日）平均1日あたりの学習時間

	ほとんどしない	30分未満	30分以上 1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上
H28	35.0%	27.5%	22.5%	12.5%	2.5%
H29	21.6%	13.7%	43.1%	21.6%	0.0%

3 成果と課題

③生徒アンケート

◆授業に対する意識

■授業に対する意識(「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した割合)

[中学校第1学年、第2学年、第3学年が回答]

質問項目	平常時の授業	乗り入れ授業
1 前回の授業内容を復習してから、授業にのぞんでいる。	34.2%	63.3%
2 授業中に発言する機会があれば、積極的に発言している。	63.6%	56.6%
3 毎回の授業の目標やねらいを理解して授業に取り組んでいる。	62.1%	93.3%
4 毎回授業に興味をもつことが多い。	59.2%	89.4%



3 成果と課題

③生徒アンケート

◆授業に対する意識

■授業に対する意識(「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した割合)

[平成28年度の高等学校1・2学年と平成29年度の高等学校2・3学年が回答]

質問項目	H28	H29
1 前回の授業内容を復習してから、授業にのぞんでいる。	46.1%	36.0%
2 授業中に発言する機会があれば、積極的に発言している。	42.7%	47.2%
3 毎回の授業の目標やねらいを理解して授業に取り組んでいる。	64.0%	71.9%



3 成果と課題

④課題

- ◆生徒の学力向上に結びつけられる取組が必要
- ◆連携事業の継続のため、組織体制の構築を推進
- ◆小中高での「目指すべき生徒像」を確立し、地域や各学校の教育ビジョンにどのように位置付くのか明確化する必要がある



4 今後の取組

- ◆ 校種間連携の更なる充実
- ◆ 「生徒の学力の向上」に繋がる校種間連携へ
- ◆ 組織体制の構築
- ◆ 教科以外での連携の検討
- ◆ 連携教育研究会議による評価

ご清聴ありがとうございました！

